

ふるさとの森づくり体験

- ☆ 日 時：平成23年10月22日（土） 9：40～16：00
- ☆ 場 所：ふるさと牧場（防府市久兼410）
- ☆ 参加者：53人（こども33人・大人20人）
- ☆ 主催者：こぶしの里牧場交遊会

1 スケジュール

- 9：40～ 開会・オリエンテーション
- 10：20～12：30 みんなが集える森づくり（間伐作業）
- 13：20～16：00 間伐材の活用・石窯ピザ作り
ふりかえり

2 活動内容

みんなが集える森をつくるため、ヒノキの間伐作業を実施し、午前中に間伐した木を山から下ろし、その木を利用して鍋敷きや小物掛け、キーホルダーづくりを行いました。

○ 開会

ふるさと牧場の山本氏と大野氏から活動の注意点について説明がありました。トゲのある植物に近づかないことやハチが近づいて来たときの対処法、木を倒す時の注意と約束、山道では草がある場所が必ずしも道があるとは限らないので注意して歩くこと等の説明を受けました。

豊かな山であるためには間伐作業が必要なことの説明を受けました。



○ 間伐作業

間伐作業は、成長過程で過密になった森林に対して、本数を減らすために抜き伐りすることです。これによって、良質な木が育ち、健全な森林へと成長します。今回、間伐した山は、様子を見て花木を植樹し、多様な樹木のある山に整備し訪れた人々が集える場所として整備していきます。



足下に気をつけながら、目的地まで山道を上って行きました。

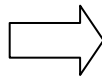


間伐作業開始。1班こども6人と指導者と大人の構成で、こどもたちが交代しながら木を伐りました。



声かけと安全確認を行って木を倒しました

倒した切り株の年輪を数えた。この木は20歳。



間伐作業開始時の森の様子

間伐作業終了時の森の様子



倒した木の枝打ち作業



「葉のついた小枝でツリーを作る」とノコで不用な枝を落としました。



指導者のもと、大学生が枝打ちされた間伐材を山から下ろしました。



下ろした木の皮を剥ぎました。面白いように剥けるため、こどもたちは夢中になりました。

○ 間伐材の活用

午後から間伐材を利用して各人が作品を作りました。

講師が、午前中まで生きていた木を伐り、皮を剥いで分かったことは何かをこどもたちに問いかけました。こどもたちは、「年輪を数えて20年くらいの木だと分かった」「皮を剥いたら、中がベタベタしていた」「枝があったところは皮が剥ぎにくかった」等の答えが返ってきました。こどもたちの答えの中から、講師は間伐するまでは木が水分を吸い上げ、貯えて生きていたことを認識させるため「なぜ、皮を剥いたら中がベタベタしていたのか」を考えてみようといかけました。こどもたちは「濡れているから」「中に水が溜まっていたから」等と答えました。水分があった理由を考えたこどもたちは、生きて



いた木を伐ったのだから、大切に利用しようということで、それぞれが、自分が作りた
と考えたものを作品としました。作品は、ノコで輪切りにした鍋敷き、先端の細い幹を切
りノミで加工して絵を描いたキーホルダー、少し残っている枝を利用した小物掛け等にな
りました。

最後に、山や自然とふれて感じたこと、間伐の意義等を復習して終了しました。

間伐作業のノコで木を伐る作業は、ほぼ子どもたちの手で行われました。大人は、木を
倒す時の安全確認が主な仕事でした。

今回間伐した場所は、これから来訪者が集える森づくりのための場所として、整備を続
けていけます。

主催団体とふるさと牧場主は、間伐作業等が里山保全に必要であることを学ぶ機会をも
つこと、子どもたちが里山に親しむこと、そして里山を守ろうと考える若者が出てくるこ
とを期待して活動されています。